

ソリューション型提案に努め、企業価値向上をサポートしています。

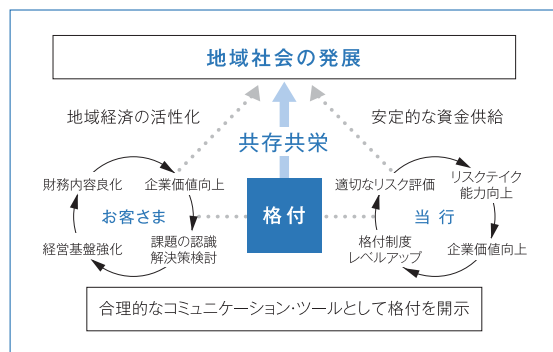
事業者のお客さま向けには、支店と本部専門スタッフが連携し、様々な提案を実施しています。特に平成19年から展開している「しがぎん格付コミュニケーションサービス」では、お客さまとの経営課題の共有を進め、「共存共栄」に向け取り組んでいます。

「しがぎん格付コミュニケーションサービス」

当行独自の蓄積データに基づく内部格付をお取引先と共有することで、不況脱出や今後の発展にお役立ていただくこと、内部格付情報をご提供する「しがぎん格付コミュニケーションサービス」を積極的に展開しています。お取引先と銀行が経営課題を共有化し、今後の経営方針や経営戦略策定に真正面から取り組んでいます。

平成19年8月からサービスを開始、平成21年9月までにお取引先1,731先に対し、合計2,262回の同サービスを実施しました。

格付制度の意義と目的



「しがぎん格付コミュニケーションサービス」の展開

「しがぎん格付コミュニケーションサービス」の提供により、お取引先から多くの反応と今後の展開に向けたお声をいただいております。

本サービスの特徴は、「在庫の増加」や「売掛サイトの長期化」等の指標の変化を単なる事実としてお伝えするだけでなく、その事象を入口とした出口（「資金繰りの悪化」や「借入の増加」）までご説明することで、お取引先の財務の良化に向けた具体的な取り組みのご提案が可能となります。

加えて、継続的にサービスを実施することで、過去からの推移や傾向を、長期的な視点でご認識いただくことができ、経営課題の分析や今後の経営戦略策定にご活用いただくほか、「会社の経営会議の資料に活用したい」とのご意見もいただいております。「決算開示後できるだけ早く実施して欲しい」「年に一度の格付にプラスして、日々の経営もモニタリングして欲しい」等の幅広いご意見もあり、今後も一層のサービスの向上を図ってまいります。



「BCP策定コンサルティング」の展開

平成21年5月に国内で感染が発見された「新型インフルエンザ」は、現在においても拡大を続けています。当行では、平成21年11月に「BCP策定コンサルティング」の内容を拡充し、今回のような感染症の世界的大流行（パンデミック）のリスクも想定したBCPの策定をサポートしています。



感染症の世界的大流行に加え、大自然災害が頻繁に発生しており、企業が直面するリスクは高まりつつあり、企業活動の停止による影響を最小限にとどめるためのBCP対策の必要性が高まっています。地域社会との持続的な「共存共栄」を目指す当行としても、地元お取引先のBCP策定は、災害発生時の企業活動の維持や雇用の安定などにおいて有益であると考えています。

当行の「BCP策定コンサルティング」はBCPの基本的な構成要因を満たしたひな型を活用しながら、お取引先と当行が対話するなかで簡易的なBCPを策定し、アドバイザーのレビューを受けるサービスで、平成21年9月までに6件のお取引先のBCP策定をお手伝いいたしました。

BCP (Business Continuity Plan)

事業継続計画（緊急時企業存続計画ともいう）：企業が自然災害・大火災等の緊急事態に遭ったとき、事業資産の損害を最小限にとどめるとともに、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画のこと。

10周年を迎えた「サタデー起業塾」

「産学官・金（金融）」の連携で、「野の花（ニュービジネス）」にかける起業家精神をサポートする「サタデー起業塾」を、10周年を迎えた今年度も5回にわたり開催しています。

当行では、ニュービジネス（野の花）の育成が地域金融機関の使命と考え、平成12年度より「サタデー起業塾」を毎年開催し、今年度を含めると、受講生は延べ1,400名にのぼります。

昨年度に続き、「環境ビジネス」に特化した「エコビジネスフォーラム」として開催し、滋賀大学や滋賀県立大学のご協力のもと、各大学のキャンパスで開催するなど、「産学官・金」の連携により、新たな「環境ビジネス」の起業をサポートしています。

また、昨年度「サタデー起業塾」の受講生の中から、平成21年2月、5団体に「しがぎん野の花賞」（産学官連携奨励金）を贈呈しました。今年度は贈呈の対象に産産連携を加え、ニュービジネス奨励金「しがぎん野の花賞」として実施いたします。



サタデー起業塾 10周年記念講演会